B3輪転　用紙サイズ:H383×W546mm　絵柄サイズ:H362×W525mm

〈3面からの続き〉

魅力ある県立高校づくりについて

まちづくりの視点でビジョンを示し、関係部局と連携を

この質問は、宇田川ゆきおが八潮市議1期目の時の課題を基に質問を組み立てました。社会情勢の変化により、埼玉県内にある県立高校の統廃合の問題が議論されてくると思います。その場合、統廃合して新設にするのか、大規模改修なのか、また、私立高校にするのか、インターナショナルスクールにするのか、地域に必要な施設になるように「質的担保」が必要です。ランドマークとして地域に活力を生み出すように、大きな視点で議論をするべきであり、マーケティングを含めながら説得力のある提案を

県議団の仲間たちと赤い羽根共同募金

すべきと主張しました。

答弁では、対象校の伝統や社会のニーズを踏まえ学校関係者や地元の意見を聞き、基本計画を策定するとのことでしたが、宇田川ゆきおとしては初動の段階でいかに綿密で明確なビジョンとタイムスケジュールを提示することができるかが重要であると考えており、関係部局が連携して、県立高校と地元が一体となって、より魅力あるまちづくりに繋がるように進めてまいります。

◆　◆　◆

宇田川ゆきおはこの他にも、児童相談所における歯科医師の配置について（福祉部長）、信号機における5Gの基地局について（警察本部長）の質問をしています。詳細は埼玉県議会のホームページからご覧いただけます。〈埼玉県議会のホームページ〉

www.pref.saitama.lg.jp/s-gikai/

【一般質問を終えて…】

この度の一般質問は、新しい知事となって初めての議会でしたので、知事選での公約や、私がこれまで取り組んできた課題、地元の問題について多岐にわたり質問をいたしました。私が、質問や政策を立案するときに大切にしていることがあります。それは、少数意見に耳を傾けることです。私はこれまでの経験から、少数の意見にこそ本質をついている場合があることを実感しています。また、政策や条例の隙間で取りこぼされてしまっている方がでないように細心の注意を払っています。今、いただいている福祉保健医療委員会の委員長という立場をしっかりと認識しながら、本質を見極めて、専門性を高めるために今後も研鑽を積んでまいります。より深化した提案で、真に助けが必要な方々に、十分な支援がいきわたるように、職責を全うしていかなければならないと身が引き締まる思いです。明確で本質を貫く質問をこれからも心がけ、皆様のお力になれるよう全身全霊を捧げてまいりますので、引き続きのご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

宇田川ゆきおコラム　vol.1　〖 ランドセル 〗

私が小学生の頃は、赤と黒ばかりだったランドセル…。今や、色も豊富で、自宅の前を通る小学生も色とりどりのランドセルを背負って通学しています。

早いもので、私の息子も来年から小学生です。春頃に妻から「ランドセルはどうするの?」と聞かれ、「来年の話だから気が早いのでは…」と応えたら、「いまは全然違う」と言われてしまいました。ランドセル商戦は活況のようで、5月のゴールデンウィークから目星をつけ注文しないと翌年の入学式に間に合わないようです。時代も変わったものです。

子どもたちが大人になったときは、今よりもさらに情報が早くなり、社会の構造の変化も著しくなるでしょう。思い返せば、小学生の頃、私が口酸っぱく言われてきたのが「予習が大事」、つまり事前の準備、情報収集が大切ということです。

県議になって子育ての政策をつくるようになって、助産師や保健師の方々から産前産後ケアについて学ぶようになりました。結婚当初から学んでいれば、妻への負担も少なく、もっと夫婦で理解しあいながら子育てができたのではないかと感じています。子育てでは、予習が少し足りなかったかなと反省しています。今からでも遅くないと思っていますので、しっかりと予習をして、子どもたちのランドセルの中に、多くの夢と希望を入れてあげられるように、よりよい政策づくりにこれからも研鑽を積んでまいります。

【宇田川ゆきお・経歴】●昭和53年八潮市八條生まれ●八潮市立八條中学校卒業●浦和実業学園高等学校卒業●東京コミュニケーションアート専門学校卒業～音楽の道へ●八潮市議会議員選挙にて初当選●専修大学法学部中退●平成21年、八潮市議会議員選挙にて二期目当選●平成27年、埼玉県議会議員選挙にて初当選●平成31年埼玉県議会議員選挙にて二期目当選●県議会・福祉保険医療委員長・文教副委員長、自然再生・循環社会対策特別委員、決算特別委員●所属団体:八潮市商工会青年部OB会、八潮市消防団、八條有志クラブ他

www.udagawayukio.com/

ご意見をお寄せ下さい　宇田川ゆきお県政事務所　〒340-0801 埼玉県八潮市八條393　TEL.048-932-4055　FAX.048-934-7099　E-mail.contact@udagawayukio.com

情熱 責任 真摯 覚悟

埼玉県議会議員

宇田川ゆきお 県政報告

令和元年 11月9日発行　11月号　Vol.13

発行:埼玉県議会自由民主党議員団 宇田川ゆきお県政事務所　〒340-0801 埼玉県八潮市八條393　TEL.048-932-4055　FAX.048-934-7099

Top Report

宇田川ゆきお県議 福祉保健医療委員長に就任。～社会福祉の向上へ 積極果敢に挑戦!～

一日ごとに秋の色が濃くなってまいりました。日頃から皆様にはご支持、ご支援をいただき厚く感謝申し上げます。

本年4月に執行されました統一地方選挙において再選させていただき、これを機に埼玉県そして八潮市の限りない発展へ向けて、皆様の期待に応えて参ります。

また、天皇陛下のご即位により、5月1日からは「令和」の時代となり、昭和・平成・令和をつなぐ基礎的自治体のまちづくりをさらに具体的に進展させるべく、決意を新たにしております。

台風・豪雨・暴風被害…。「安全・安心」に向け、総合的な施策を推進

まちづくりの概念の中で最も基本的なことに挙げられるのは市民の「安心・安全」をどのように担保していくかという問題です。つまり、日常の市民生活が平穏で快適なものになるように、総合的な施策の推進が求められているのです。

今年は台風15号、19号、21号が連続して襲来し、風雨による大きな被害が生じてしまいました。改めて被災者の皆様には心からお見舞いを申し上げます。

福祉保健医療委員会のテレビ中継

地域の地勢・地理的条件は変えることができません。八潮市は中川、綾瀬川などの川に囲まれた中川低地にあります。人々は有史以来、「水」との戦いを繰り返してきました。農業用水を担保するための「水」と、低地であることに起因する水害対策の「水」の両面での戦いです。

テレビさいたま荒木アナウンサーからインタビュー

このことは八潮市立資料館に各種史料が残されていますが、八潮の昔話にも伝えられています。第17話の「蛇橋」の中では、綾瀬川の氾濫をめぐる歴史悲話が残されています。現在では土木技術が進化し、綾瀬川の治水対策も用水整備などにより、安全度を高めてまいりました。

【2面に続く】

Contents

1・2面 …… Top Report 宇田川委員長、抱負を語る
2・3・4面 … 9月定例会、宇田川ゆきお県議の一般質問
4面 …… 宇田川ゆきおコラム（Vol.1）

《台風の被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。》

B3輪転　用紙サイズ:H383×W546mm　絵柄サイズ:H362×W525mm

Top Report　宇田川委員長、抱負を語る

近年では、異常気象が常態化しており、「今までに経験したことのない」強大な自然災害に対して、最悪の事態を想定し入念な事前準備が必要となってきています。私は少しでも減災するために、この度の水害に関連して、緊急時の避難情報の伝達、被害状況の把握、内水を排水するためのポンプ場の電源確保、ポンプ場の建設計画の前倒し、河川の水位に関する情報開示などを県に要望しました。

福祉保健医療委員長に就任。役割を活かし、政策の充実につなげます

県議会議員の県政へのアプローチは、一般質問や各委員会における質疑応答です。これらを繰り返すことで、政策をより専門的に深化させていきます。

私は令和元年5月臨時会で、福祉保健医療委員会の委員長に就任いたしました。この委員会は、県庁福祉部、保健医療部、病院局を所管し、委員長・副委員長他10人の委員で構成されています。

主な審査項目は社会福祉施設の整備拡充、児童・高齢者・障害者福祉施設の推進、地域医療体制の整備拡充、病院事業などです。とりわけ私は、安心して子育てができる環境をさらに充実させていきたいと考えています。また、県立病院や地域医療機関との連携を図り、予防医療・先進医療につなげていかなければならないという課題にも取り組んでまいります。

県議会議員2期目としてご期待に応えるため、さらに活動を拡げます

さらに所属委員会に関連して、高齢化が進む中で、高齢者のためのワンストップ行政サービス（高齢者版ネウボラ）を構築していかなければならないと思っております。もちろん地域住民の安心安全を担保するための都市基盤整備、橋や道路整備、中川河川整備、ライフラインの維持など、災害のシュミレーションを想定しながら積極的に取り組んでまいります。

県議会議員2年生として、皆様のご期待に応えられるように、さらに活動を拡げ、深めてまいりますので、ご指導ご意見を賜りますよう宜しくお願いいたします。

埼玉県議会議員
宇田川幸夫

2期目当選証書授与式…決意も新たに。

もっと育児しやすい未来になるように、八潮市の助産師さんとママさん達と語り合いました!

10月2日 9月定例会

宇田川ゆきお県議が一般質問で登壇。知事の政策をうかがい、子育て、福祉に独自の視点で建設的提言を展開

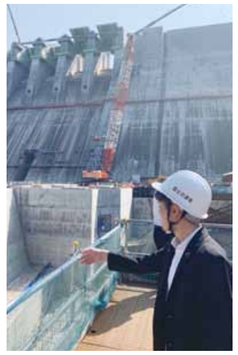
知事の政治姿勢及び選挙公約について
再々質問まで行い、公約の具体的な期限を引き出す

宇田川ゆきおは、知事が提案する、東京都と埼玉県境近くを走る鉄道を埼玉県内まで延伸する「あと数マイルプロジェクト」について、しっかりとした工程表を示すべきと質問をいたしました。新しい知事になっての初めての一般質問でしたので再々質問まで行い、知事の政治姿勢を伺いました。具体的には、①知事が公約を作るときに描いた目標完成年度について最短で何年、最長で何年という具体的な数字、②事業実施に向けての予算規模、財源について、③事業の実現方法について、④1期4年で、どの路線が任期内に出来上がり、出来上がらない路線はどの路線か、⑤地元が期待する東京8号線について知事が国や東京都へトップセールスをする考えがあるか、また、事業主体や基金創設についてどのように考えているのかを問いました。

知事の答弁には、具体的な数字、財源・工程表が示されなかったこと、特に東京8号線の基金についてトーンダウンをしたように感じたことから、知事はすべてやりきる覚悟があるのかを再質問しました。

さらに再々質問として、工程表をいつ示すのか、さらに突っ込んだ質問を行いました。その答弁として12月までに示したいとの回答を引き出しました。

宇田川ゆきおとしては、12月議会までに公約の工程表を何らかの形で示すとの答弁を引き出せたことを成果と感じています。より具体的なものがしっかりと示されるよう今後も注視してまいります。



◀八ッ場ダム視察

産前・産後ケアについて
産前・産後ケアを充実させ、民間との連携も提案へ

子育て支援についての取り組みは、宇田川ゆきおのライフワークです。今回の質問では、妊娠から出産、子育て期にわたる切れ目のない支援をする、子育て制度である「ネウボラ」について、その中心的な役割を果たす「子育て世代包括支援センター」の県内の設置状況について問い、さらに、産前・産後のケアの取組状況、産前・産後ケアの充実に向けて、今後どのように取り組んでいくのかを伺いました。

子育て世代包括支援センターの設置状況については、今年度末までに県内すべての市町村に設置がされるようになります。しかし、産前・産後ケアを実施しているのは、わずか5市町村のみという状況でした。宇田川ゆきおは、産前・産後ケア分野では、民間が先行し、かつ、成功事例があることから、民間の強みをさらに発揮できる制度設計づくりが急務であると考えています。民間事業者が、国や県に直接、補助金などを申請することができるスキームができないか、今後より調査をして制度改革ができるように進めてまいります。

金融教育と生涯所得について
教育長も重要性を理解、さらに取り組むとの答弁を得る

宇田川ゆきおは、環境が著しく変化する時代であっても“経済的な自立”ができる人材育成のため、小学生の頃から、経済や金融の仕組み、資産や収支を適切に管理する方法を学び、生涯所得を増やすための教育プログラムの実施を提言してまいりました。

今回の一般質問でも、金融に関する教育の必要性と今後の展開について、教育長に所見を伺いました。

答弁では、今後も金融に関する教育の推進に取り組むとの回答を得ました。

宇田川ゆきおは、さらに、今後は税の使われ方、税がどのように使われており、生涯のあらゆるステージの中で税の補完がどのようにされながら経済生活が成り立っているのか等、さらに実質的な教育を行うべく、働きかけてまいります。

大山市長と連携して八潮の未来を創ります。

ヘルスケアビジネスについて
埼玉をヘルスケアビジネスの一大拠点へ

厚生労働省は、9月19日、県立がんセンター、埼玉医大国際医療センターを「がんゲノム医療拠点病院」に指定しました。宇田川ゆきおはこの指定を契機に、直接健康に働きかけるモノ、サービスにかかわる「ヘルスケアビジネス」を埼玉県に誘致し、育成を図るべきであると考えています。そこで今回の質問では、①ヘルスケアビジネスをはじめとする成長分野のスタートアップ企業と県内企業等との連携策、②ヘルスケアビジネスのような成長分野に投資を行う企業に対しての、埼玉県としての支援策を問いただしました。

答弁では、スタートアップ企業に対する支援は行っているものの、支援のあり方をさらに検討を進める、県内企業の研究開発を強化し、企業の魅力を高める支援を継続するとの回答を引き出しました。宇田川ゆきおは、さらにウエアラブル端末との連携などIOTの活用により個々にあった健康の増進を図るとともに、医工連携・産学連携を推進し、埼玉県を医療とヘルスケアビジネスの一大拠点となるよう、今後も取り組んでまいります。

〈4面に続く〉

大原親睦会朝顔コンクールにて挨拶